

公開版

平成26年度 教育委員会 第14回定例会 議案

1 日 時 平成26年10月27日（月） 午前9時30分

2 場 所 教育委員会議室

3 日 程

(1) 開 会

(2) 議 事

<非>第32号議案 平成26年度末教職員人事異動方針 … 非

<非>第33号議案 平成26年度静岡県教育委員会表彰被表彰者の決定 … 非

<非>第34号議案 教職員の懲戒処分 … 非

(3) 報告事項

(4) 閉 会

静岡県教育委員会

第14回定例会 報告事項

番号	項 目	Page
1	教育委員会定例会・臨時会非公開案件の会議録の公開について (見直し)	1
2	平成 25 年度児童生徒の問題行動等生徒指導上の 諸問題に関する調査結果 (抜粋)	2
	平成 26 年 11 月の主要行事予定	6
配付 のみ	平成 26 年度第 2 回学力向上推進協議会・ 第 5 回学力向上対策本部会	7
配付 のみ	第 3 回「地域とともにある学校づくり」検討委員会	9

(件名)

教育委員会定例会・臨時会非公開案件の会議録の公開について（見直し）

(教育総務課)

昨年の 10 月 7 日の定例会から、定例会・臨時会の非公開案件の会議録についても公開案件と同様に、県教育委員会のホームページ上で原則公開してきたが、その実施の中で問題点が顕在化してきた。

そのため、人事案件については、審議を非公開としている趣旨に鑑み、会議録についても非公開とする。

なお、昨年 10 月の定例会以降、すでに公開されている人事案件の会議録についても、さかのぼってホームページ上から削除する。

平成25年度児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査結果（抜粋）

（義務教育課）

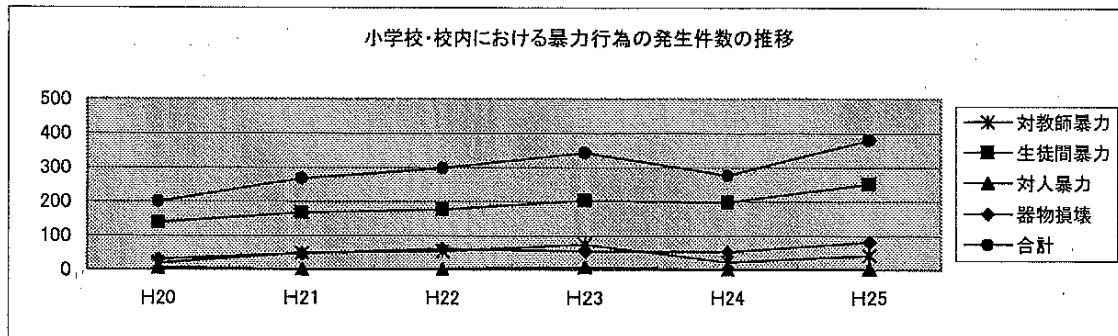
1 暴力行為の状況

(1) 校種別、校内・校外別の発生件数の推移

形態	小学校						中学校					
	23年度		24年度		25年度		23年度		24年度		25年度	
	校内	校外	校内	校外	校内	校外	校内	校外	校内	校外	校内	校外
対教師暴力	75	0	23	0	43	0	188	0	228	0	250	2
生徒間暴力	204	30	199	46	252	38	623	119	782	120	785	109
対人暴力	9	7	2	4	4	8	6	31	17	31	18	34
器物損壊	55		53		82		241		252		300	
合計	380		327		427		1,208		1,430		1,498	

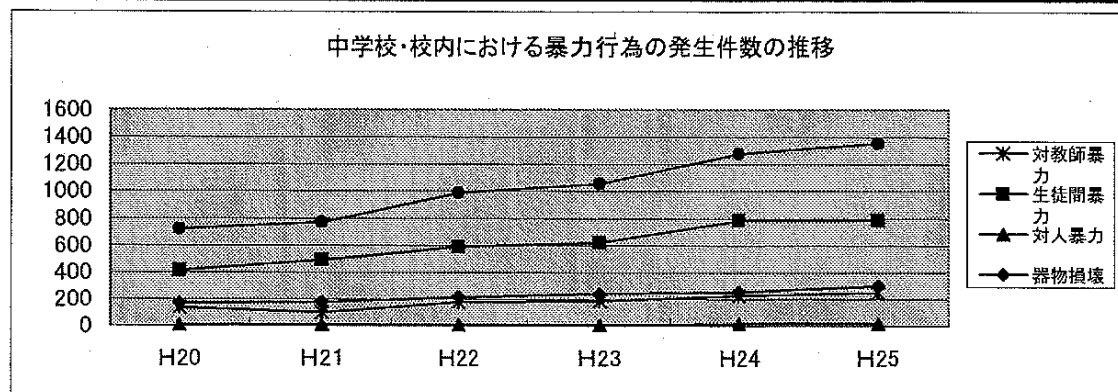
(2) 小学校・校内における暴力行為の発生件数の推移

形態	20年度		21年度		22年度		23年度		24年度		25年度	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
対教師暴力	19	9.5	50	18.7	55	18.5	75	21.9	23	8.3	43	11.3
生徒間暴力	140	70.0	168	62.9	177	59.4	204	59.5	199	71.8	252	66.1
対人暴力	8	4.0	1	0.4	3	1.0	9	2.6	2	0.7	4	1.0
器物損壊	33	16.5	48	18.0	63	21.1	55	16.0	53	19.1	82	21.5
合計	200		267		298		343		277		381	



(3) 中学校・校内における暴力行為の発生件数の推移

形態	20年度		21年度		22年度		23年度		24年度		25年度	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
対教師暴力	136	18.9	100	13.0	176	17.8	188	17.8	228	17.8	250	18.5
生徒間暴力	411	57.2	488	63.4	590	59.8	623	58.9	782	61.1	785	58.0
対人暴力	3	0.4	3	0.4	6	0.6	6	0.6	17	1.3	18	1.3
器物損壊	169	23.5	179	23.2	215	21.8	241	22.8	252	19.7	300	22.2
合計	719		770		987		1,058		1,279		1,353	



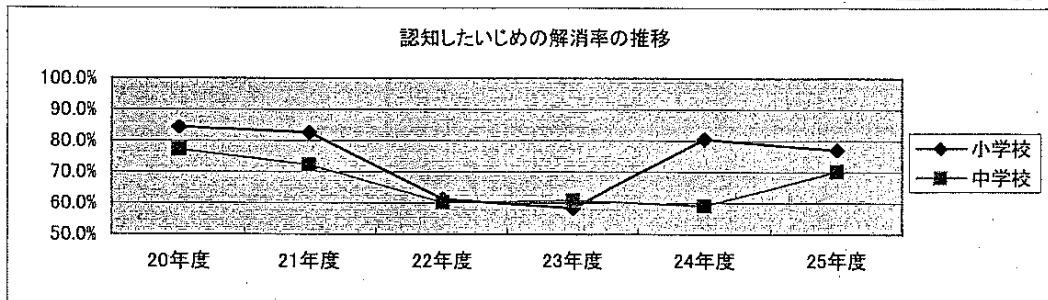
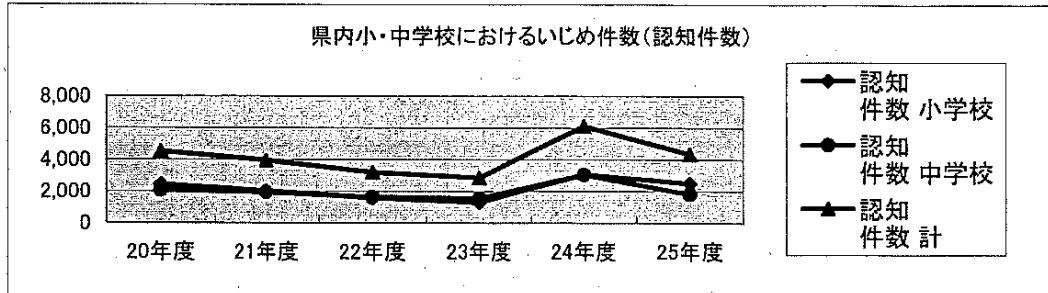
2 いじめの状況

(1) 小・中学校におけるいじめの認知件数の推移

※文部科学省調査におけるいじめの定義「当該児童生徒が、一定の人間関係のある者から、心理的、物理的な攻撃を受けたことにより、精神的な苦痛を感じているもの。」

(件)

		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
認知件数	小学校	2,455	2,019	1,589	1,301	3,075	2,510
	中学校	2,075	1,939	1,622	1,561	3,046	1,831
	計	4,530	3,958	3,211	2,862	6,121	4,341
解消率	小学校	84.4%	82.7%	61.3%	58.3%	80.5%	77.1%
	中学校	77.1%	72.3%	60.2%	60.9%	59.1%	70.2%



※解消率は、「解消している」と回答した件数の認知件数に対する割合

(2) 指導後のいじめの状況

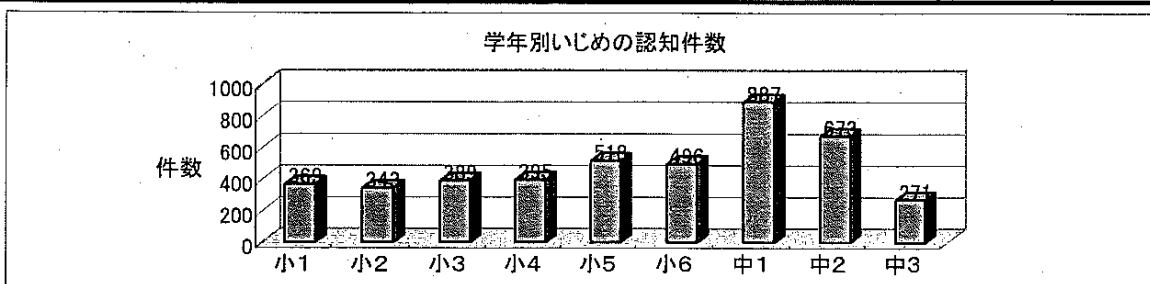
(件)

	小学校				中学校			
	22年度	23年度	24年度	25年度	22年度	23年度	24年度	25年度
解消している	974	759	2,474	1,934	977	950	1,799	1,286
一定の解消が図られたが、継続支援中	427	422	442	504	509	445	1,028	427
解決に向けて取組中	184	113	151	68	128	155	213	105
他校へ転学等	4	7	8	4	8	11	6	13

(3) 学年別いじめの認知件数

(件)

学年	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
25年度	369	343	389	395	518	496	887	673	271
24年度	338	480	541	560	585	571	887	1,024	572



(4) いじめ発見のきっかけ (件)

区 分	小学校		中学校	
	24年度	25年度	24年度	25年度
学級担任が発見	410	279	363	219
他の教師が発見	30	55	150	92
養護教諭が発見	8	3	28	16
スクールカウンセラー等外部相談員が発見	17	3	20	9
アンケート調査など	1,018	936	1,173	525
本人からの訴え	761	482	759	486
本人の保護者からの訴え	554	520	320	303
他の児童生徒からの情報	148	124	131	107
保護者(本人の保護者を除く)からの情報	111	92	77	69
地域の住民からの情報	9	8	9	0
学校以外の関係機関からの情報	4	5	8	1
その他	5	3	8	4
計	3,075	2,510	3,046	1,831

(5) いじめの態様 (複数回答可) (件)

区 分	小学校		中学校	
	24年度	25年度	24年度	25年度
冷やかしのからかい・悪口や脅し文句	1,987	1,540	1,975	1,242
仲間はずれ・集団による無視	427	344	629	334
軽くぶつかる、遊ぶふりで叩く等	913	717	580	388
ひどくぶつかる、暴力をふるう	152	124	254	97
金品をたかられる	40	32	71	30
持ち物を隠され、壊され、捨てられ等	236	186	206	93
嫌なこと、恥ずかしいこと等される	223	208	179	123
パソコンや携帯電話等で誹謗・中傷	16	33	155	126
その他	136	121	92	61
計	4,130	3,305	4,141	2,494

(6) 学校におけるいじめの問題に対する日常の取組 (複数回答可)

区 分	小学校				中学校			
	24年度	24実施率	25年度	25実施率	24年度	24実施率	25年度	25実施率
職員会議等を通じて共通理解を図った	502	97%	494	96%	258	97%	255	96%
いじめの問題に関する校内研修を実施した。	356	69%	338	66%	165	62%	203	77%
道徳や学級活動の時間にいじめにかかわる問題を取り上げ指導した	462	89%	472	92%	226	85%	237	89%
児童・生徒会活動を通じて、生徒同士の人間関係や仲間作りを促進した	265	51%	254	49%	149	56%	139	52%
スクールカウンセラー、相談員、養護教諭を積極的に活用して相談に当たった	366	71%	357	69%	229	86%	228	86%
校内組織の整備など教育相談体制の充実を図った	342	66%	363	71%	207	78%	216	82%
専門機関との連携、相談窓口の周知や広報の徹底を図った	153	30%	152	30%	105	40%	105	40%
学校の対応方針や指導計画等を公表し、保護者や地域住民の理解を得るよう努めた	100	19%	106	21%	50	19%	55	21%
PTAや地域の関係団体等とともに、いじめ問題について協議する機会を設けた	65	13%	63	12%	40	15%	42	16%
いじめ問題に対し、地域の関係機関と連携協力した対応を図った	41	8%	44	9%	41	15%	42	16%
その他	13	3%	15	3%	3	1%	12	5%

(7) いじめの日常的な実態把握のために、学校が児童生徒に対し行った具体的な方法 (複数回答可)

区 分	小学校				中学校			
	24年度	24実施率	25年度	25実施率	24年度	24実施率	25年度	25実施率
アンケート調査の実施	515	100%	512	100%	265	100%	265	100%
個別面談の実施	398	77%	388	75%	239	90%	243	92%
教職員と児童生徒との間で日常的に行われている日記等	322	62%	325	63%	247	93%	257	97%
家庭訪問	303	59%	285	55%	192	72%	190	72%
その他	30	6%	25	5%	12	5%	8	3%

3 不登校の状況

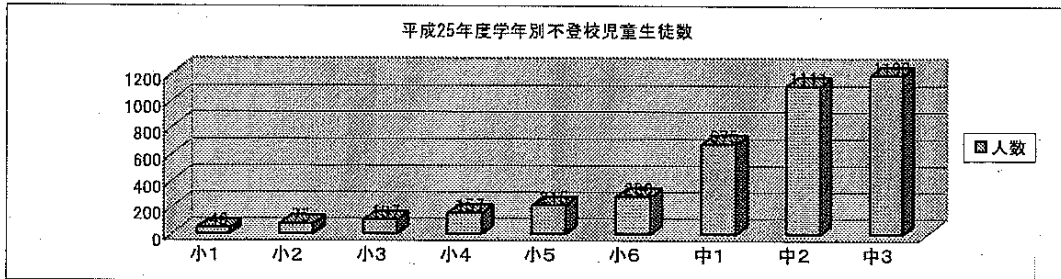
(1) 小中学校の不登校（年間30日以上の欠席者）の推移

	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
小学校	869	850	855	868	758	880
県割合	0.41%	0.40%	0.41%	0.42%	0.37%	0.44%
国割合	0.32%	0.32%	0.32%	0.33%	0.31%	0.36%
中学校	3,147	3,061	2,879	2,840	2,840	2,976
県割合	3.07%	3.00%	2.86%	2.80%	2.81%	2.96%
国割合	2.89%	2.77%	2.73%	2.64%	2.56%	2.69%
計	4,016	3,911	3,734	3,708	3,598	3,856

(2) 学年別不登校児童生徒数 例) 小2の場合；77人中、継続者19人が占める割合。19/77*100

※表内の数は人数 () 内は前年度から不登校が継続している児童生徒の割合

学年	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
25年度	46	75(31%)	107(39%)	157(38%)	215(39%)	280(41%)	675(27%)	1,111(52%)	1,190(63%)
24年度	51	69(16%)	91(30%)	122(34%)	185(36%)	240(38%)	719(28%)	974(43%)	1,147(52%)



(3) 不登校となったきっかけと考えられる状況 (*複数回答可)

区分	小学生		中学校	
	人数	割合	人数	割合
学校に係る状況	1 いじめ	19	65	
	2 いじめを除く友達関係をめぐる問題	82	527	
	3 教職員との関係をめぐる問題	28	47	
	4 学業の不振	41	276	1,167
	5 進路にかかる不安	8	34	
	6 クラブ活動、部活動等への不適応	0	71	
	7 学校のきまり等をめぐる問題	5	63	
	8 入学、転編入学、進級時の不適応	21	84	
家庭に係る状況	9 家庭の生活環境の急激な変化	64	147	650
	10 親子関係をめぐる問題	194	365	
	11 家庭内の不和	50	138	
本人に係る状況	12 病気による欠席	91	161	2,358
	13 あそび・非行	10	277	
	14 無気力	161	677	
	15 不安など情緒的混乱	289	870	
	16 意図的な拒否	44	163	
	17 上記のいずれかにも該当しない、本人の問題	101	210	
18 その他	63	95		
19 不明	5	36		
合計	1,276		4,306	

(4) 不登校児童生徒への指導結果状況

区分	小学校		中学校	
	人数	%	人数	%
指導の結果、登校する(できる)ようになった児童生徒	214	24.3	640	21.5
指導中の児童生徒	666	75.7	2,336	78.5
継続した登校には至らないものの好ましい変化が見られるようになった児童生徒	183	20.8	522	17.5
計	1,063		3,498	

(件名)

平成 26 年 11 月の主要行事予定

(教育総務課)

日 時	行 事 名	会 場 等
11/3 (月) 10:00~11:20	☆静岡県知事表彰式	県庁別館 21 階
11/5 (水) 午後 (予定)	◎教育委員会定例会 (11 月第 1 回)	県庁西館 8 階教育委員会議室
11/14 (金) 13:00~15:30	○子ども・若者育成支援強調月間 静岡県大会	藤枝市生涯学習センター
11/17 (月) 午後 (予定)	◎教育委員会定例会 (11 月第 2 回) ◎静岡県教育委員会表彰	県庁西館 8 階教育委員会議室 県庁別館 21 階

◎ 全委員 ☆委員長のみ ○該当委員のみ

【県議会 12 月定例会】

12 月 1 日 (月) 開会

12 月 4 日 (木)・5 日 (金)・8 日 (月)・9 日 (火)・10 日 (水) 本会議

12 月 12 日 (金)・15 日 (月) 常任委員会

12 月 19 日 (金) 閉会

(会期 19 日間)

平成26年度第2回学力向上推進協議会・第5回学力向上対策本部会

(義務教育課・教育政策課)

I 平成26年度第2回学力向上推進協議会

1 事業の目的

学識経験者と研究実践地区(三島市・焼津市)、研究実践校(錦田小・和田小)及び県教育委員会が一堂に会して、本県の子どもたちの学力や学力向上に関する施策の成果や課題を検証し、今後の学力向上に係る施策を協議、検討する。

2 日時

平成26年10月2日(木) 午前9時30分から正午まで

3 参加者

- (1) 学識経験者(2人)
- (2) 研究実践地区教育員会学校教育課長(2人)
- (3) 研究実践校校長(2人)
- (4) 県教育委員会各課長、人事監、参事、センター総合支援課長、教育事務所地域支援課総括指導主事(計8人)
- (5) 政令市指導主事、各課指導主事等(計10人)

4 内容

- (1) 平成26年度全国学力・学習状況調査結果報告
- (2) 研究実践地区、実践校
- (3) 各課取組の経過報告
- (4) 協議「平成26年度全国学力・学習状況調査結果の検証と今後の取組」

5 主な報告・意見

- (1) 平成26年度全国学力・学習状況調査結果報告
 - ・教科に関する調査結果から見える成果と課題
 - ・全国学力・学習状況調査の活用度の向上。児童生徒の意識も変化。
 - ・教師の授業改善の意識は高まっている。
 - ・中学校の安定要因として考えられること
- (2) 研究実践校及び実践地区から
 - ・条件に合わせて書くことが十分できていない。
 - ・単元構想を大事に考えていて、予定黒板の書き方も一工夫している。
 - ・家庭学習にも力を入れている。
 - ・国語を好きにするためには、どうやっていけばよいのか。
- (3) 各課から
 - ・普段の日に30分以上読書する児童生徒の割合が若干増えた。
 - ・教師が研修に参加して得た成果を教育活動に生かしている。
- (4) 協議から
 - ・教師の授業における目標や振り返りへの意識は高いが、児童生徒がそれを実感するまでには至っていない。しかし、教育事務所の定期訪問では、「授業改善の視点」の3つの柱を大切にし、授業改善に取り組んでいる学校が多い。
 - ・「話す」「聞く」に加えて「書く」ことを意識した授業を展開している学校が増えている。
 - ・指導主事が授業内容等の具体例を示して指導をすることで、教員がイメージをもてるよう心掛けている。

6 今後の予定

- (1) 第3回学力向上推進協議会
平成26年11月28日(金)
報告書のまとめ
- (2) 各実践校へのサポートチーム派遣
各実践校の校内研修(事前研修と授業公開、事後研修会)への参加

Ⅱ 第5回学力向上対策本部会

- 1 概要 昨年度、学力向上推進協議会から出された「静岡県の子どもの学力向上のための提言」に沿って、各課等のこれまでの取組や今後の取組等についての情報共有と意見交換を行った。
- 2 日時 平成26年10月2日(木) 午後1時から午後2時まで
- 3 場所 県庁西館8階教育委員会議室
- 4 参加者
- | | |
|---------------|----------------|
| 教育監 | 水元 敏夫 (本部長) |
| 教育総務課長 | 池田 和久 |
| 教育政策課長 | 山本 知成 |
| 義務教育課長 | 林 剛史 |
| 義務教育課参事 | 奥村 篤 |
| 社会教育課長補佐 | 杉浦 雅美 (課長代理出席) |
| 静岡県総合教育センター所長 | 杉本 寿久 |

5 内容

(1) 報告

○これまでの取組について

- ・広報紙「Eジャーナルしずおか」への確かな学力を育むための授業改善等に取り組む好事例の掲載、調査結果の分析や課題の明確化のためのデータ分析の支援(教育政策課)
- ・「学習指導要領が求める学力をより明確にした授業改善」について、三島市、焼津市の2校による確かな学力の育成に係る実践的調査研究の推進や「学力調査の問題や結果の活用」について、バージョンアップした分析ソフトの学校現場への提供等(義務教育課)
- ・家庭教育支援のための「つながるシート」の作成とその活用促進、親子読書や質の高い読書活動のための読書アドバイザーの活用等(社会教育課)
- ・全国学力・学習状況調査結果において、特に、県として不足しているところに焦点を当てた類似問題「チア・アップシート」の作成等(総合教育センター)

(2) 協議

○今後の取組について

- ・全国学力・学習状況調査結果の誤答分析や指導主事の資質向上の必要性、広報紙「Eジャーナルしずおか」による情報発信(発達段階に応じた宿題の出し方等の紹介)、来年度の全国学力・学習状況調査における理科への対応の必要性などが議論された。

○今後の学力向上対策本部会の開催について

- ・第3回学力向上推進協議会(11月下旬開催予定)を受けて、第6回目となる学力向上対策本部会を開催することを本部長より説明した。

第 3 回「地域とともにある学校づくり」検討委員会

(義務教育課)

1 事業の目的

静岡県が掲げる「有徳の人」の育成に向け、学校運営協議会（コミュニティ・スクール）の導入を促進するとともに「文・武・芸三道鼎立」を推進し、地域ぐるみ・社会総がかりで子どもたちの教育にかかわる学校づくりを協議する。来年度に向けて静岡県での推進に向けて検討する。

2 日時

平成 26 年 9 月 26 日（金）午前 10 時 30 分から正午まで

3 参加者

- ・学識経験者（1 人）
- ・地域整備センター理事長（1 人）
- ・教育活動実践者（2 人）
- ・学校・行政関係者（2 人）
- ・経済関係者（1 人）
- ・芸術・スポーツ関係者（2 人）
- ・教育委員長、教育委員、教育長、教育次長、（4 人）
- ・政令市教育委員会指導主事、県教育委員会関係課長、指導主事等（16 人）

4 内容

- (1) 事務局からの説明（国の概算要求の状況、取組の方向性、具体的な協議の柱）
- (2) 協議（静岡らしさの具体化、優れた教育実践の情報発信など）

5 主な意見

- (1) 静岡らしさについて
 - ・防災の切り口での取組
 - ・スポーツで基礎や楽しさを子どもたちに教えてくれる人を集めたい。一流の人やプロでなくて、たくさんいるのではないか。
 - ・芸術や文化も継承できる手だてを作っていきたい。
- (2) 実践例
 - ・土曜日は顧問の教師がいなくても、地域の人が部活動を指導する日を試している。
 - ・行政側でのバックアップとして、地域の指導者の登録制度や場所を作るなどの確保をしている地区もある。
- (3) その他
 - ・県で部活動の指導者への支援（指導）が必要である。
 - ・校長先生や教師への理解が不可欠である。
 - ・クラブチームと部活動、中体連との関係で難しい部分がある。
 - ・地域によって違う形で進めていかないとうまくはいかない部分を十分考えたい。
 - ・県内だけでなく、県外などから外部の指導者が入っている実践例を事務局に探してほしい。それを次回に報告してほしい。

6 今後の予定

- (1) 山口県と京都市の推進地区の視察
平成 26 年 10 月 23 日（木）、24 日（金）
小中学校の様子を見学。県教委や市教委の取組の様子などを伺う予定
- (2) 第 4 回「地域とともにある学校づくり」検討委員会
平成 26 年 12 月（予定）磐田市の実践発表
- (3) 第 5 回「地域とともにある学校づくり」検討委員会
平成 27 年 1 月下旬～2 月上旬